



ダ ッ シ ュ

NPO 法人目黒体育協会会報

編集発行／NPO法人目黒体育協会広報部

発行日／令和4年5月31日

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会体験記 特集号



『中央体育館に「テコンドー公式練習会場 レガシー銘板」が設置されました』

NPO法人目黒体育協会

会長 會田 陽久

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界的にまん延したコロナ禍の中、通常年での大会は中止となり、近代オリンピック史上初めて1年後の開催となりました。最近のオリンピックでは、2012年のロンドン大会でボランテアの活用が積極的に行われ、東京大会の開催に当たってはロンドン大会以上にボランテアの導入を目指しましたが、コロナまん延がその意欲を削ぐことになり、当初希望された方たちの中でも辞退者が出る結果となりました。

そのような状況下で、目黒体育協会傘下団体の会員の方たちがボランテアや競技役員として参加されたことは喜ばしいことであり、貴重な経験をされたことを嬉しく思います。活躍の場はホテル、空港、競技会場など多岐にわたりましたが、1964年東京大会に比較すると、訪問する方たちも受け入れる我々も国際化の経験を踏まえてスムーズな交流ができたように思います。皆様お疲れさまでした。

東京2020オリンピック・
パラリンピック競技大会を終えて

体協理事 朝倉 三枝子

私にとって2度目のオリンピック・パラリンピックがやってきました。ワクワクする気持ちで大会ボランティアに応募し、ホテルサポートとして10日間活動しました。

ホテルサポートの仕事内容は、ホテルオークラにてIOCメンバーや一般客のセキュリティチェック(持ち物検査)や検温、また多くの会議室入り口でのアクセシビリティカード(資格認定証)のチェックです。時には案内役も務め、その際には海外の方々からお国自慢も聞く事が出来ました。7月20日、21日には大きな宴会場にて「IOC総会」が開催され、とても華やかな雰囲気のもと、多くの出席者の方々(菅総理、小池都知事、バツハIOC会長、橋本東京2020大会組織委員会会長等)がSPに囲まれながら入場されました。こうして毎日活動する中、IOCのメンバーや、ボランティア同士の笑顔での挨拶が、とても気持ちよく感じられました。ある日には、「Hello!」とお声がけしたIOCの方が急に部屋に戻り、五輪マークのピンバッジを持ってきてくださいました。これは本当に嬉しい!ことでした。

また、会議室前にてアクセシビリティチェックを担当していたところ、部屋から出てきた一人の女性が振り返り、私に「ありがとうございます!」

と声をかけて下さいました。その方は何と橋本聖子会長でした。とてもさわやかで、たった一人のボランティアにも心配りしてください、さすがスポーツマン、礼を尽くされる方だと思ひ感動し、特に心に残っています。

このボランティア活動を通して多くの方々と接する事が出来、また貴重な体験をさせて頂く事が出来ました。



バドミントン競技
大会ボランティアに参加して

目黒区バドミントン協会
天野 聡士

りました。

私の仕事は、アドミニストレーションという役割です。内容は、会場内の動線のゲート管理、大会本部のサポート、我々ボランティアの食事の準備などがあり、その中で私が担当したのは、食事の準備でした。

この仕事は、直接競技に関わらないので周りからは面白くないと思われるのですが、私には合っていた。

ました。面白かった点は、バドミンントンの競技会場には簡易的な休憩場があり、そのエリアの食堂化を図ったことです。初日は訳もわからず、食事の適正個数も把握できない中で、何とかお弁当の配布を終えました。2日目以降は、『オリンピック食堂』と名前を決定し、食事をしてもらう人たちの快適化、感染予防対策など見直しを行い、日に日に進化していく食堂となり、「今日も、楽しみに来たよ」と言われるようになりました。そして「また同じメニューか!」そんなコメントには、食堂メニューに合う、おにぎりやパンを入れることを提案したり、飲み物の種類を増やしたり、アイスクリームを追加で準備したりと試行錯誤を繰り返しました。食事に来た皆に楽しんでもらい、頑張ってもらえるように努めました。

また私に合っていた点ですが、ボランティアメンバー全員と必ずオリンピック食堂で言葉を交わすことができたことです。おかげで皆が私の名前を覚えてくれました。たわいない会話で時間を忘れ、朝から夜まであつという間の大会ボランティアとなりました。バドミンントンの試合も、作業の休憩中に会場内で観戦させていただきました。

一方パラリンピックの方では、国立代々木競技場で競技のオメガ(記録係)としてサポートしました。この仕事は、試合中の得点、ラリー回数、警告などをシステム内に記録していくことです。コートサイドに席があり、目の前で熱い試合が繰り広げられていました。

女子ダブルス(SL3・SU5※)銅メダルマッチで伊藤選手・鈴木選手組が銅メダルを獲得した試

合、混合ダブルス（SL3・SU5）銅メダルマッチで藤原選手・杉野選手が銅メダルを獲得した試合等のオメガ担当をさせていただきました。記録をしながら、選手近くと同じ空間に立ち会え、そしてまた、金メダルを日本が獲得した瞬間や、「君が代」が流れる中、日の丸が一番上に掲揚された瞬間を共有出来たことに感動、感謝しています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ボランティアの活動と感動は、私の大切な宝ものになりました。

※SL3・SU5・・・腕や足に障害のあるクラス



呈茶で おもてなし
目黒区バスケットボール連盟
穴井 正人

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会ではバスケットボール強豪チームの対戦や日本チームの観戦などを楽しみにしておりましたが、コロナ禍において延期となり、また無観客での開催となりましたので、それらを会場で身近に感じることが出来ないかと落胆しておりました。

私の趣味はバスケットボールですが、仕事柄文科系の趣味として裏千家茶道を学んでおります。そこで、せっかくの東京開催なので何か出来ることはないかと模索していたある日、所属する支部から茶道ボランティアのお話を頂きました。内容は、馬術競

技の行われる世田谷馬事公苑内のラウンジにて、各国の来賓や関係者にお抹茶をさしあげるボランティアです。

コロナウイルスの感染者数が増える中、どのような対策をして安全に呈茶（ていちゃ）※をすることが出来るかに重点を置き、苦心致しました。

外国の来賓の方々が多く、皆様笑顔でお抹茶を召し上がっていました。甘いものが苦手な方もおられました。皆様が共通しておっしゃったことは、外出制限もあり日本文化を感じられる場所に行くことが出来なかったものの、こちらの馬事公苑のラウンジは特別で素晴らしいとお話でした。

五輪の

お菓子と
パラリン
ピックの
シンボル
マークで
あるスリ
ーアギト
スの干菓



上：『オリンピック菓子』
下：『パラリンピック菓子』
イラスト by 後藤豊美

子をそれぞれに用意したことで、橋本聖子東京2020大会組織委員会会長をはじめとする日本の来訪者の方々にもとても喜んで頂けました。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に際しましては、賛否両論がありましたので呈茶をすることにも紆余曲折がありました。しかし私の人生に二度とない東京2020大会でのボランティアをさせていただけたことは一生の思い出

になりましたし、このタイミングでこの場所に居られたことに感謝を申し上げます。

※呈茶：お茶を差し上げる



東京2020大会
ボランティアに参加して
目黒区陸上競技協会
遠藤 裕子

IOCから「ありがとう」ピンバッジが届きました！日常を離れ無我夢中だったあの日々も、もう遠い昔のような気がしています。

オリンピックでは、代々木練習場で陸上の運営サポートを担当しました。ジャマイカの選手が、ボ3



「ありがとう
ピンバッジ」

ランティアの適切な対応で準決勝に間に合い、その後、金メダルを獲得したという話は皆様ご存じのことと思いますが、実は私も、レースに臨むはずのブラジル選手がバスを乗り間違え、練習場に来てしまったというという想定外の事態に遭遇しました。その選手のために道路に出てタクシーを止め、Uターン禁止の交差点を警察官の方に頼み込みUターンさせてもらってスタジアムに送り、選手は無事試合に間に合いました。生憎とその選手は金メダルを取れなかったためか、ブラジルに招待されると

私の東京オリンピック・パラリンピック

東京オリパラ競技大会組織委員会
スポーツ局競技運営部 射撃チーム
目黒区ライフル射撃協会 嶋村 健太

役目は、来日する射撃選手の空港での受け入れと、帰国時のサポートです。

顔合わせでは、大会本部組織委員の銃砲担当の方をはじめ、旅行会社の方、通訳担当者、そしてライフル射撃協会、クレール射撃協会の関係者が集まり、大会遂行の説明を受けました。皆様もご承知の通り、この大会遂行にはバブル方式が採用され、一般の方々と接しない方法で参加者を受け入れ、また見送るといった方法がとられました。

今回私が受け持つ射撃競技は、出場される選手がそれぞれ自分の銃器を持って来られます。日本には銃刀法と言う法律があり銃器の他、実包(弾薬)も含め、これらは日本では一旦輸入扱いにされます。この時に経済産業省の輸入許可が必要になり、ここで税関法が入ります。しかしこれで終わりではなく、この仕事の最初と最後に、銃器と選手を運ぶ航空法が関わってきます。テロ対策特別措置法もあり、と

東京2020大会はコロナ禍の影響から開催が危ぶまれ、やるのかやらないのかヤキモキしていました。6月になって大会組織委員会から集合の案内メールが届き、顔合わせのため、羽田空港国際線第三ターミナルへ向かいました。ちなみに私が仰せつかった主な

でもデリケートな仕事でした。私達に与えられた仕事は銃砲の番号確認と弾薬の数量計算なのですが、普段見慣れた銃器なら特に問題はないものの、昔の銃砲も見かけました。

大きなトラブルもなく仕事は行えたと思います。その中で二つ、とても印象に残っている出来事がありました。一つ目は、入国審査前に空港内で行方分からなくなつたため、一通りの手続が終わるまでに、10時間もかかってしまった選手がおられました。入国ゲートを出てきた時には、それはもうご立腹でしたが、なんとか納得して頂き、最後は笑顔で選手村へ向かってくれました。しかし二つ目は、キューバの選手の手荷物に実包(実弾)が紛れ込んでいて、搭乗ゲート前のX線で金属反応が出てしまい、あわや大事件となりかけました。空港警察と組織委員の責任者が搭乗ゲートまで行き、処理手続きをして弾薬放棄させたそうです。この飛行機がゲートから離れてくれた時は、私達関係者は安堵というより肩の力がスーッと抜けた感じでした。

ほとんど飛行機が飛んでいない時期でしたが、オリンピック組織委員会と約束されていた幾つかの航空会社が定期便を飛ばしてくださったおかげで、多くの国の参加者に日本へ来ていただけました。こうして目の当たりに出来た経験は、スポーツとは競技のみならず、その競技に参加するための努力であり、良い結果はメダルだけではないと思えました。この様な大きな国際大会で出会った人達との交流と、最後は気持ち良くなりながら言えたこの大会は、私にとって生涯忘れない良い思い出となりました。

結びにですが、どんな過酷な環境であっても、オリンピック・パラリンピックに出場する選手はその状況の中で最高のパフォーマンスを出す凄い人達ばかりでした。自分の射撃に言い訳などなく、最高のプレーをやり遂げ、大会後には笑顔で出国ゲートへ向かった選手に心から感謝します。

大会ボランティアに 関わって…

目黒区ミニバレー協会
坪井 真

この度、東京2020大会にボランティアとして関わりたく申し込んだところ、羽田空港で約20日間、海外から参加される方々の誘導役として携いました。様々な国の多くの方々と触れ合う事が出来て最高！でした。

東京2020 オリンピック・ パラリンピック競技大会を終えて

目黒区陸上競技協会 柳澤 一良

全国の地区陸上競技協会から選抜された日本陸連公認審判員の一人として、大会期間中マラソン・競歩の審判活動に従事してまいりました。私の担当は各国の選手が独自に用意する、パーソナルボトル(いわゆるスペシャルドリンク)の受付・管理・供給という仕事で、競技当日は



担当エリアの給水ステーションを設営、レース中はエリア内の監視活動を行いました。マラソン競技ではオリンピック、パラリンピックともに担当エリアの現場責任者である主任を任せられました。

競技審判員と言ってもどちらかというところジャッジの対象は選手ではなく、通過する選手を待ち構える各国のコーチ達の方になるでしょうか。決められたルールの中で、きちんと選手のサポートをしているかをチェックするのも仕事の一つで、ルール違反を発見した時は英語で注意を与えます。相手は英語圏の人間とは限りませんので、そんな時はお互い身振り手振りで辛抱強くコミュニケーションを図りました。当初は戸惑うことが多かったのですが、片言の英語でも案外通じるものですね。

目黒区内に大使館を構えるケニアのコーチともやり取りがありました。自国のテールブルが選手に識別しやすいよう走路にはみ出して国旗を振ろうとしていたため、正しい国旗の提示の仕方を指導しました。金メダルを獲得したキプチョゲ選手をはじめケニアは多くの有力な選手を抱えているため、それをサポートするコーチ陣も必死です。もちろんどの国のコーチも、我を忘れて選手をサポートすることに変わりはないのですが、興奮状態にある皆さんをコントロールするのはとても苦労しました。キプチョゲ選手と言えば、彼が飲んで投げ捨てたボトルが偶然にも私の目の前に転がってきたというハプニングがありました。マラソン世界最高記録保持者が飲むドリンクとは一体どんなものなのか、興味津々だったのでボトルをコソソリ回収して、記念にスマホでパチ

リと撮らせていただきました。もちろんそのあと、ボトルは廃棄処分といたしましたが……。

このように陸上競技審判員として最高峰の舞台に立っているという喜びを実感した一方で、ここに至るまでの道程を思うとき、いろいろな感情がよみがえってきたのも事実です。とにかく運営面に関しては異例づくめの大会でした。

みなさんもすでにご承知の通り、オリンピックマラソン・競歩会場の突然の札幌移転に始まり、コロナ禍により開催は1年の延期、そして極め付きは、女子マラソン実施前日夕方になってからの、スタート時刻1時間繰上げ宣告でした。このほかにも、イレギュラーな対応に追われた例は数え上げたらキリがありません。

それでも競技役員全員が心折れることなく、着実に業務を遂行できたのは役員一人一人が同じ目的意識を共有し、それぞれの役割で何が最善なのかを常に考え臨機応変に行動してきたからだと言えます。いかに困難な状況下であっても、志を同じくする者同士で力を合わせれば必ず目的は達成できる。これを証明できたことが、東京2020大会での最大のレガシーではなかったでしょうか。IOC事務方のトップは審判団解散の挨拶と謝辞の中で、「今まで自分が携わった五輪の中で、本大会が最も素晴らしかった。You are perfect!」と述べてくれました。まさにこれこそが日本の強みであり、底力なのですね。国立競技場での表彰式では東京2020大会の一番最後を締めくくったのは女子パラマラソン視覚障害の部、日本の道下選手でした。少し大袈裟かもしれ

ませんが、ドラマのエンディングでスタジアムに「君が代」が流れ、センターポールに日の丸が掲揚される、この光景を特別な想いで眺めていたのは、私だけではなかったでしょう。道下選手に渡された金メダルは心の中ではチャッカリ自分の首にもかけて、この長いようで短かった本大会を終えることにしたいと思います。

霞ヶ関ゴルフ場での
大会ボランティア
目黒区ミニバレー協会
匿名希望



私は、ゴルフの開催会場「霞ヶ関ゴルフ場」で、延べ13日間のボランティアに参加しました。猛暑の日々で、海外からの参加選手、キ6ヤデイさんは、相当苦戦されていました。

私たちも同様に暑さと闘いながら、コース間の誘導や整理等、選手の皆さんに気持ちよくプレイに集中していただけるよう、細心の注意を払い業務を遂行しました。

今回、橋本聖子東京2020大会組織委員会会長、中島常幸プロともお会いでき嬉しかったです。特にゴルフトーナメントプロデューサーの戸張捷氏とボランティアの意義についてのお話ができ、意気投合できたのが良かったです。

今後とも機会があればボランティア活動に関わりたいと思います。

目黒区立中央体育館は、東京2020大会でテコンドーの公式練習会場となりました。

東京 2020 オリンピック・ パラリンピック競技大会と中央体育館

中央体育館館長 金山 和也

中央体育館は、6月25日～9月10日までの約3ヶ月間、東京2020大会テコンドー競技の練習会場として協力致しました。会場設営から撤去、そして安全対策など組織委員の方々が徹底した運営をする中、我々体育館スタッフは朝の搬入・搬出や準備、選手の誘導、受付でのお迎え、選手と運営スタッフ全員の退館後の施設点検管理など、朝6時過ぎより夜11時頃まで慌ただしく時が過ぎました。

テコンドー選手はオリンピック・パラリンピック共に大型バスで来館しました。皆さんから明るい挨拶をして頂き、バッチ交換などをする選手も見受けられ、エントランスは常にフレンドリーな雰囲気でした。

施設内の練習会場は競技場と格技場を含め4会場となり、外国人選手のために施設全体を養生し、下足利用できる環境を整えました。選手の方々はラウンジにてリラクセスしたり、開放されたトレーニング室で最終調整したり、様々な使い方をしていました。

以下、体育館スタッフの感想です。

A メキシコのメディアの方はおおらかで明るく、待ち時間もずつとおしゃべりしていました。ほとんどの選手が挨拶をしてくれて素晴らしいと思えました。

B 一生のうち今後はもうできないであろう貴重な体験をさせて頂きありがとうございます。いつもと違う体育館、いつもと違う人達が来館されて、新鮮な気持ちでした。

C 無事終わってよかったです。コロナが無ければもっと楽しい気持ちになれたのかなあと思うと残念ではありません。

D 公式練習会場として使用され、オリパラの選手が来館されたことで「テコンドー」に興味を持ち、試合を応援するキツカケともなりました。開催が危ぶまれたり、コロナ感染が拡大したりする中、当会場で感染が広がることなく安全無事に終了できてよかったです。

E オリリンピックの練習会場のスタッフとして貴重な体験ができてよかったです。

F 女性ボランティアがホスピタリティを發揮して、素晴らしいと思えました。また、台湾のメディアの方に東日本大震災の時のお礼を伝えたところ、コロナワクチンのお礼を言われました。オリパラを通じて心の交流ができました。

G 海外の選手からWi-Fiの有無について多く質問がありました。海外から迎え入れる施設としてWi-Fi環境がないのはどうかということ、中体では早めの導入を検討しています。

H 世界各国から選手の来館がありました。中央体育館が実施している感染症対策と組織委員会の運営で大きな問題もなく無事に終える事が出来ました。

I 東京でのオリンピック開催誘致から決定までの期間、その後中央体育館での公式練習場決定に伴うリニューアル工事、またコロナ感染症における開催延長と長きに渡る期間を経ての開催となりましたが、無事終える事ができてうれしく思います。同時になかなかできない経験や貴重な体験ができたと感じています。

J ボランティアの方々はバスの発着時に道路に並び、



『 期間中、救急車が待機 』

手を振りながらお見送りしていました。バスの中の選手も皆、手を振り返して見れて、温かい気持ちになりました。生活習慣の違い、トイレの緊急ボタンやエレベーターの非常ボタンが多く押され驚きました。

中央体育館における
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の記録



『東京2020オリンピック・パラリンピック聖火リレートーチ』が巡回展示されました。2021年12月4日(土)~12日(日)



『中止になったオリンピック聖火リレーサポーターランナーのユニフォーム』

中央体育館2階にレガシー銘板が設置されました。(巻頭)
その他、テコンドー選手からのサインや記念グッズ等も併せて展示されていますので、是非ご覧ください。



『中段左 目黒区ゆかりの選手(パネル)』
『下段左 オリ・パラグッズ、ボランテニアユニフォーム等』
『下段右 パラテコンドー太田選手のグローブ、工藤選手のヘッドギア他』



『上：パラリンピックに出場したテコンドー選手のサイン』

